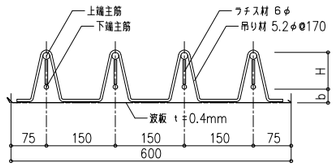
フェロー（プロト・エコ）デッキ標準図 （鉄筋トラス付捨て型枠床版工法）

（一財）日本建築総合試験所
（GBRC性能証明　第22-13号）

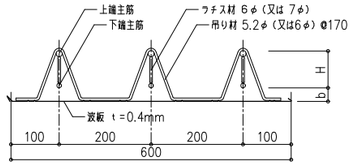
1．工法の概要

工場で捨型枠と床用鉄筋（主筋方向のみ）を一体化して生産された床構成材を現場にて梁間に敷き並べる。
その後、主筋連結筋及び配力筋を配置し、現場打ちコンクリートを打設して床版を構築する工法である。

2．断　面　図

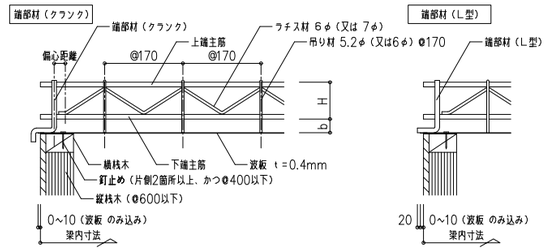


フェロー（プロト）デッキ　形状



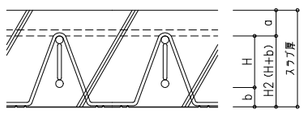
フェロー（エコ）デッキ　形状

3．標準納まり図



※端部材の仕様及び躯体のみ込みは、現場単位で決定すること。
※端部材とラチス材の偏心距離が30mmを超える場合は、端部の補強を行う。

タイプ表示　例）B 80 － 110 → H2（H＋b）
→ H
→ タイプ（上下弦材の組み合わせによる）



A，eA　：上D10，下D10
B，eB　：上D13，下D13
C，eC　：上D13，下D10
D，eD　：上D16，下D13
E，eE　：上D16，下D16
RD, ReD　：上D13，下D16

4．種　　類

	上 端 主 筋	下 端 主 筋	ラチス材	吊り材	波板
Aタイプ	D10	D10	6φ（又は 7φ）	5.2φ（又は 6φ）	0.4mm（亜鉛メッキ鋼板 めっき量 Z12）
Bタイプ	D13	D13			
Cタイプ	D13	D10			
Dタイプ	D16	D13			
Eタイプ	D16	D16			
RDタイプ	D13	D16			
プロト	@150				
エコ	@200				

5．施工手順及び留意事項

（1）搬入・荷揚げ・仮置
・荷揚げは2点又は4点吊りとし、ハビの保護に留意し、スリング（布帯）等にて荷揚げする。
・敷き込み方法に合わせて、ハビ方向を確認し仮置きする。

（2）取　　付
・割付図の施工順序により、1枚目より順次取付する。
・ハビが潰れている時は、ツノ等で修復し、確実にハビかけを行う。
・デッキの固定方法は、型枠の桟木へ幅方向については1枚（600mm幅）に対し片側2ヶ所以上、かつ400mm以下で釘止めする。
・L型端部材の場合は、釘止め固定が完了するまではデッキの上部・下部への立入禁止措置を行うこと。
・柱廻り・梁斜め部は、波板・鉄筋を切断し、端部材（L型筋）を復旧する。復旧の際に端部材とラチス材の端部の偏心距離が30mmを越える場合は端部の補強を行う。
・幅方向の調整は、カット製品、又は調整板にて行う。
・囲仕切壁等のある場合は、波板のみ切断する。
・スラブ下面で打継ぎを設ける場合は、ズレ防止としてつなぎ材（フック筋）にて固定する。

（3）梁上の上端主筋連結（定着）筋
・重ね継手長さは Ｌ1以上、定着長さは Ｌ2以上 とする。

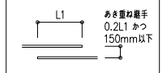
（4）上端配力筋の施工
・重ね継手長さは Ｌ1以上、定着長さは Ｌ2以上 とする。
・結束は６００mm以下を標準とする。

（5）施工時の注意
・鉄筋・ラチス材・吊り材を一体化したデッキは、施工時支保工の役目を持つ構造材であるため、部材の切断は行わないこと。設備・配管工事のためコンクリート打設前に切断の必要がある時は、支保工等の補強を行う。
・開口部は、大きさにより定められた補強方法で開口補強を行う。
・仮設時許容スパンを超える場合、及びデッキ部材を切断する場合は、仮設サポートを設ける。

（6）直線重ね継手長さ・定着長さ（普通コンクリートの場合）

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度	重ね継手長さ（L1）	定着長さ（L2）
SD295	18	45d	40d
	21	40d	35d
	24~27	35d	30d
	30~36		
	39~45	30d	25d
	48~60		

あき重ね継手について



*）あき重ね継手長さ（L1）
プロトタイプ　L1 ≧ 375mm
エコタイプ　L1 ≧ 500mm

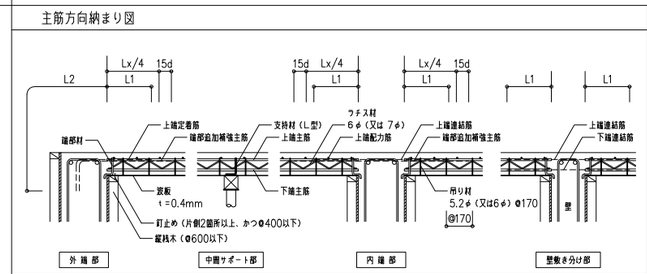
※本物件の設計図書（構造標準図・仕様書等）が上表と異なる場合は、本物件の仕様を優先する。

標準納まり図　＜ ＲＣ 造 ＞（ １方向 ）

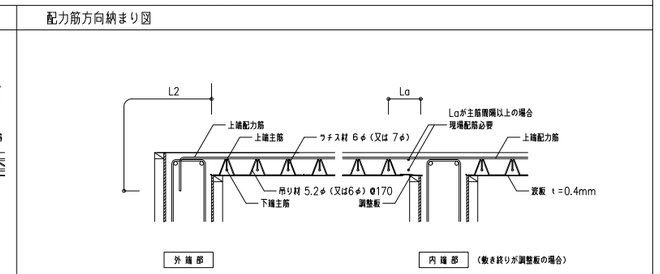
＜お問合せ先＞　TEL ： 03-3580-2551
（株）東京富士昭　FAX ： 03-3580-2552

2023年 8月10日 改定

主筋方向納まり図

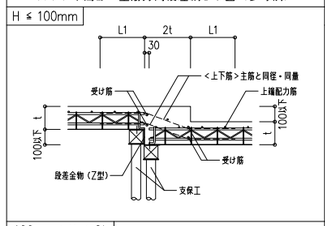


配力筋方向納まり図



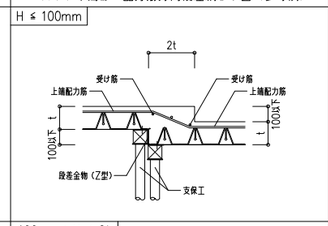
スラブ中間部　主筋方向段差納まり図（参考例）

H ≦ 100mm

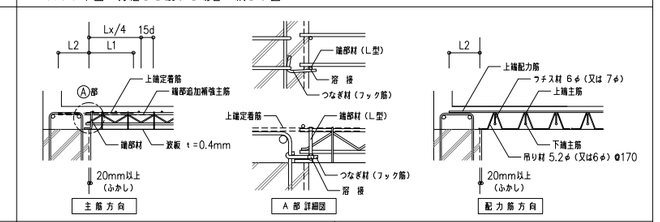


スラブ中間部　配力筋方向段差納まり図（参考例）

H ≦ 100mm

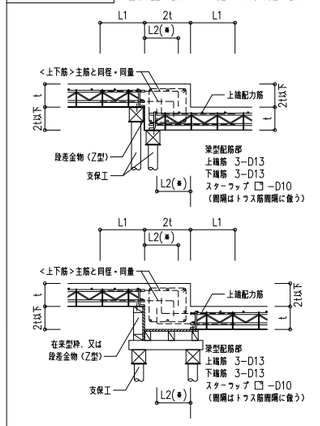


スラブ下面で打継ぎを設ける場合の納まり図



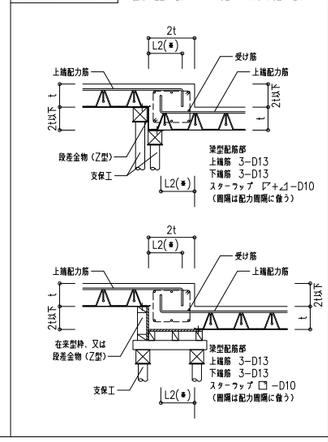
100mm＜ Ｈ ≦ 2t

※直線でL2を確保できない場合は、梁内で定着を確保する。



100mm＜ Ｈ ≦ 2t

※直線でL2を確保できない場合は、梁内で定着を確保する。

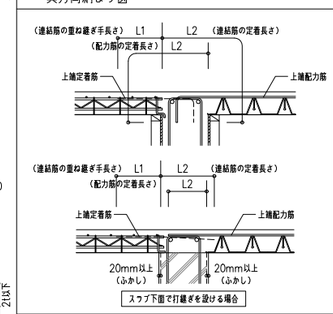


サポートを設置する場合の注意事項

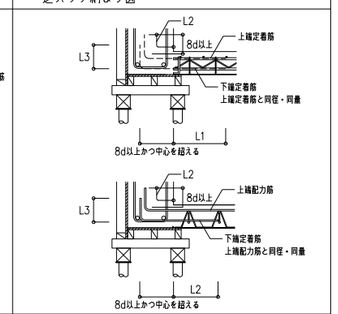
段差増打ちのある場合、施工荷重と吊り材と波板の溶接耐力を比較し、サポートによる補強方法が異なります。

1．溶接耐力が施工荷重未満の場合	トラスと直交方向に必要数を配置する。
2．溶接耐力が施工荷重以上の場合	溶接耐力が不足する範囲をベニヤ型枠などを介し、波板面全体を支えるように補強する。

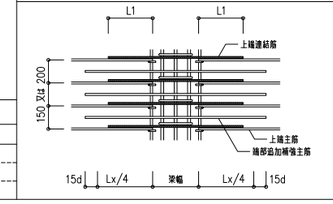
異方向納まり図



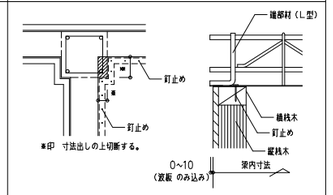
逆スラブ納まり図



連結筋及び追加補強主筋納まり図



柱廻りの加工処理

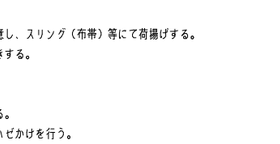


フェロー（プロト・エコ）デッキ　スラブリスト

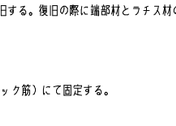
符　号	スラブ厚（増打厚）	デッキタイプ	位　置	トラス方向〈短辺方向〉 製　品	連結筋・定着筋（現 場 配 筋）	追加補強主筋（現場配筋） 端　部 デッキ接続部〈A 範囲〉	端　部 連続張り時梁上部〈C 範囲〉	中 央 部〈B 範囲〉	トラス直交方向〈長辺方向〉（現 場 配 筋） 端　部〈D 範囲〉	中 央 部〈D 範囲〉
			上端筋							
			下端筋							
			上端筋							
			下端筋							
			上端筋							
			下端筋							
			上端筋							
			下端筋							
			上端筋							
			下端筋							
			上端筋							
			下端筋							
			上端筋							
			下端筋							

配 筋 位 置 案 内 図

トラス方向〈短辺方向〉



トラス直交方向〈長辺方向〉

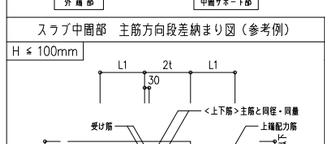


開口補強（現場配筋）

※鉄筋を切断した際の小口補修方法は、監理者と協議のこと。

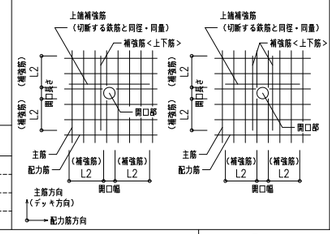
開口幅 ≦ 200mm

補強を行わない開口



補強を行う開口

・開口により切断された鉄筋が主筋1本、配力筋1本の場合
・開口により切断された鉄筋が主筋2本、配力筋1本の場合

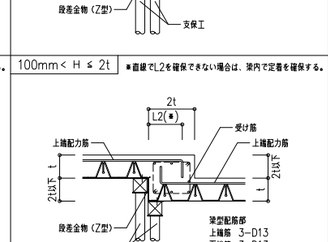


200mm ＜ 開口幅 ≦ 450mm

n1：切断した主筋数
n2：切断した配力筋数

上端筋

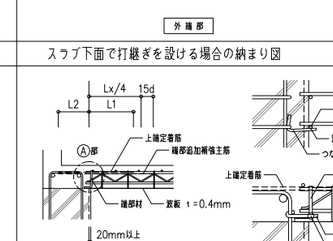
下端筋



450mm ＜ 開口幅 ≦ 700mm

n1：切断した主筋数
n2：切断した配力筋数

上端筋

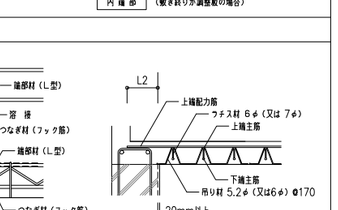


下端筋

連続する開口の補強

・複数の開口が隣接してもかぶり厚さを確保できる場合は、独立した開口と見なす。
独立した開口と見なせない場合は、開口幅に準じて開口補強を行う。

かぶり厚さを確保できる場合



かぶり厚さを確保できない場合　（例：包囲した開口幅が450mm以下の場合 ）

備　考

特 記 事 項

設計・監理

株式会社 東京富士昭

工事名称
工事名称

縮尺　1：5
1：20

図面名称
フェロー（プロト・エコ）デッキ標準図

図番
1